

令和2年度特別史跡加曾利貝塚短期的整備の進捗について（北貝塚住居跡群観覧施設改修）

1 事業の概要

北貝塚住居跡群観覧施設は、地下の遺構や貝層そのものを来訪者に直接伝えることを目的とし、約259.2㎡の空間に無柱で覆屋を設置し、実物を露出展示している施設である。

昭和43年の竣工から50年以上経過し、外壁・内壁の老朽化が進行しているため、再塗装を行う必要があることから、既存屋根の撤去・新設を行うとともに、見学者の利便性向上を図るため、観覧通路のバリアフリー化による見学環境の改善を図る。

2 工事の概要

(1) 北貝塚住居跡群観覧施設の現状

- ア 竣工時期 昭和43年3月（竣工から50年以上経過）
- イ 構造・規模 鉄筋コンクリート造・平屋建
- ウ 屋根構造 プレキャストコンクリート曲面板を架構
- オ 観覧通路 壁面に沿ってL字型に設置。幅1.8m。通路途中に階段を設け、遺構を様々な角度から見学できる。
見学路と遺構の間は、高さ約2mのアルミパーティション（ガラスはめ込み）で遮蔽し、見学に資するよう、木製のライティングボードと手すりを設置している。
- カ 出入口 乾燥による遺構への悪影響があったため、当初一重だったものを前室型の二重扉に改修している。
- キ 照明設備 見学通路：蛍光灯
遺構面：ハロゲン型スポットライト
- ク 空調設備 竣工当初、壁面に4か所の換気口が設置されていたが、乾燥による遺構への悪影響があったため封鎖している。
- ケ 排水処理 施設の南北にU字溝を設置し、屋根から落ちる雨水を浸透枳で処理している。

(2) 既存屋根の撤去

既存屋根材（プレキャストコンクリート曲面板）は、屋根から降ろして解体する必要があるため、100tオルタークレーン（据置時の総重量75t）を使用し、7枚全てを吊り上げ、撤去する。

屋根材は全長が18mあり、そのまま史跡外に搬出することができないため、施設周辺に敷鉄板を敷設して解体ヤードを確保し、バックホウ0.5㎡を使用して粉砕する。

破碎後、10tダンプに積込み、史跡外へ搬出する。

(3) 屋根の新設

新たに鉄骨造の屋根を設置する。

フッ素ガルバリウム鋼板（0.4mm）による横葺き屋根とする。

屋根裏及び軒裏に断熱材を設置する。

(4) 外壁・内壁の改修

外壁は水洗いの後、下地調整し、サンドセラミック調装飾仕上げとする。
内壁はデッキブラシ等で清掃（水洗いはしない）した後、サンドセラミック調装飾仕上げ塗材とする。

風除室は外部・内部ともに木目調シート建材で仕上げる。

ファンルームは耐震性が低いブロック造の壁を撤去し、ALC版で新設し、木目調シート建材で仕上げる。

(5) 観覧通路のバリアフリー化

露出展示区域を囲むようにL字型に設置されている観覧通路について、段差を解消し、車椅子の見学者が見学できるよう既設見学通路上にスロープを新設する。スロープと既存床の間は山砂により埋め戻す。

新設スロープ部分の床はモルタル金ゴテ下地とし、特殊防滑長尺シート床材で仕上げ、他の部分は既存床を研磨の上、特殊防滑長尺シート床材で仕上げる。

(6) アルミパーティションの撤去・新設

屋根工事および天井工事に支障をきたすとともに、スロープ新設により床の高さが変わるため、既設アルミパーティションの撤去・更新が必要となる。

天井工事終了後、新たにアルミパーティションを設置し、透明強化ガラス（6mm厚）をはめ込む。

(7) 電気・機械改修

観覧通路の直管蛍光灯を蛍光灯型LEDに更新する。

遺構面を照射するスポットライトをミニハロゲン電球タイプからLEDタイプに更新する。

遺構面の照明は人感センサーによる点灯・消灯が可能なものとし、通常のスイッチも設置する。

観覧通路に設置してあるエアコン2基を室外機と併せて更新する。

建築基準法上、居室扱いとなるため、天井扇（24時間換気機能付）及び給気グリル（ネットフィルター付）、非常灯、誘導灯を設置する。

漏電防止対策として、接地棒を設置する。

(8) 仮設計画

史跡指定地内で重機が通行・稼働する範囲は、敷鉄板（22mm厚）を設置する。アスファルト敷園路を除く範囲はブルーシートを敷設した上に山砂を100mm以上敷き均し、凹凸を無くしたうえで、敷鉄板を設置する。

施設の内部は、山砂を入れた土のうと不織布、コンパネで露出遺構範囲を千葉県教育委員会専門職員が養生し、遺構面への影響がないことを確認した上で、施工業者がブルーシート・コンパネ等を敷設し、足場を組むこととする。また、屋根材撤去時は雨水が露出遺構範囲に滞留しないよう、常時排水ポンプを設置し、降雨時に備える。